

環境 里山を彩るちょうたち

かべ新聞朝倉 第20号

●発行日 平成28年(2016年)7月1日

●発行所 朝倉市・朝倉市環境アクション協議会 かべ新聞編集委員会 〒838-0062 福岡県朝倉市堤4-6 電話 0946-22-1111 (朝倉市 環境課) ●印刷 (株)四ヶ所

ツマキチヨウ ※実物大



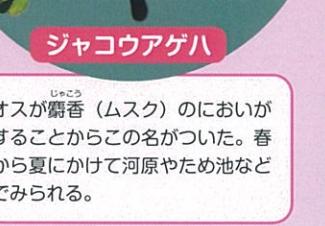
成虫で冬を越すため、長い期間みることができ、冬の晴れた日はかしの木の近くなどで翅を広げて日光浴している姿もみることができます。



オオムラサキ
(県準絶滅危惧)



翅の裏側がやや緑色なのが特徴で、6月から9月にかけてアザミやヒヨドリバナなどに集まる。



オスが麝香（ムスク）のにおいがすることからこの名がついた。春から夏にかけて河原やため池などでみられる。



一時期激減していたが、最近では夏ごろの花壇や野原などで以前よりも多くみることができるようになった。



成虫は4月から11月位に、庭や空き地などで身近にみることができる。鮮やかな目立つ色合いが特徴。



雑木林などでみられ、クヌギやコナラ、ヤナギの樹液などに集まる。みられる期間は夏場の短い期間に限られているが、その姿はとても鮮やかで美しい。



モンキチョウ

朝倉の里山で目を凝らしてみると、様々な模様や色の綺麗な蝶をみることができます。中には、日本の国蝶に選ばれているオオムラサキや、福岡県の準絶滅危惧種に分類されているヒオドシチョウなど、珍しい蝶もみられます。蝶によって生育環境やみられる時期も様々で、花壇や野原だけでなく色々なところで常にみて楽しむことができます。

さまざまな自然環境とともに：



※実物大

環境保全活動紹介

黄金川を守る会

スイゼンジノリ唯一の自生地

金川地区を流れる黄金川は、全国で唯一のスイゼンジノリ自生地といわれています。スイゼンジノリは日本固有のラン藻類で、絶滅の恐れがある貴重な植物です。朝倉市では、江戸時代から高級食材として珍重され、秋月藩の財政を支えたことから、その产地は「黄金川」と名付けられました。

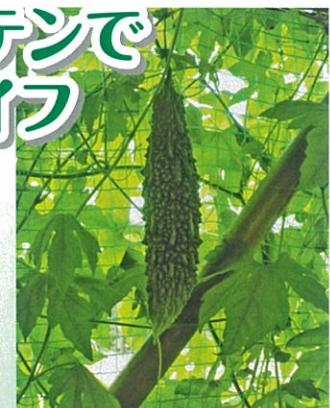
黄金川の水源は湧水ですが、近年の環境変化等により水量が激減し、スイゼンジノリの自生が厳しい状況になっています。黄金川を守る会（会長：井本五男 会員：1003名）では、スイゼンジノリの自生地を守るために、福岡県、朝倉市と連携して、保全活動に取り組んでいます。

会長の井本さんは「国の補助事業に採択されたことで、川の水量と流速を保つための事業に取り組むことができるようになりました。ふるさとの川とスイゼンジノリという地元の財産を守り続けるために、これからも活動していきます。」と話していました。



グリーンカーテンで快適&エコライフ

グリーンカーテンは、室内温度を和らげて電気代にエコな上、植える種類によっては収穫も楽しめて食費にもエコになります。そんなグリーンカーテンに挑戦されているみなさん、ご自慢のカーテンを写真に収めてアクション協議会まで送ってください。優秀作品に選ばれた写真は、次号のかべ新聞を始め、市報やホームページに掲載されます。



「グリーンカーテン」写真募集!

- 必要事項：①氏名 ②住所 ③電話番号 ④撮影日
⑤グリーンカーテンの写真 ⑥コメント（50字以内）
- 募集期間：平成28年7月1日～平成28年9月15日（必着）
- 送付先：〒838-0062 朝倉市堤4-6 朝倉市役所環境課環境係
- E-mail：kankyo@city.asakura.lg.jp
- その他：応募は、メール及び郵送可。郵送の場合は写真の返却は致しません。
・1回の応募につき1作品の応募になります。
- 主催：朝倉市環境アクション協議会 ※詳しくは、市環境課（0946-22-1111）

毎月第2週は
きらきら美化
週間
きらちゃん

フラワーロードの看板リニューアル

アクション協議会では、市の「花いっぱい運動」事業と連携して、甘木鉄道甘木駅～三福町交差点までと医師会病院前～鳩胸交差点までの道路を「フラワーロード」と名付け、花いっぱいのまちづくりを応援しています。

フラワーロードの花壇には、管理者を紹介する看板を設置していますが、年数が経ち文字が見えにくくなつたため、このたび新しい看板に付け替えました。看板の文字は、甘木中学校書道部の生徒さんに書いてもらいました。部長の善鈴奈さんは、「部員全員で心を込めて書きました。花壇に設置されたところを見るのが楽しみです。」と話していました。

